

農繁期 レポート

令和8年 7月号

ニールファーム

オーナー	株式会社G-7新流
産地	三重県伊賀地区
水田面積	9.0アール
保証量	玄米252kg
形態品種	コシヒカリ(有機JAS認証)



生産者 (株)ツーライフ農園:北出 茂樹さん

お世話になっております。田植えから約二か月が経過いたしました。
全体として順調に生育が進んでおり、圃場によっては幼穂の確認ができる段階となりました。今後は、生育の進度に応じて追肥を行うとともに、カメムシ防除を計画的に実施してまいります。
7月に入り降雨がほとんどなく、14日頃からは連日で熱中症アラートが発令されております。そのため、圃場への巡回は朝夕の涼しい時間帯に限定する日が続いております。今年は田植えが遅かったこともあり、ちょうど中干しの時期と重なったことで水管理の負担が軽減されております。現在のところ、水不足による問題はなく、中干し後の入水についても支障は生じておりません。7月に入り畦畔の草刈りを実施し、その後、獣害防止のため電気柵の設置を行いました。約2.5haの圃場に対し、5m間隔で支柱を設置し、2段の裸線を張り巡らせています。畔草刈りだけでは防ぎきれない状況が続いており、被害を未然に防ぐための重要な対策となります。太陽光発電式バッテリーにより夜間通電を行っており、現在のところ被害は発生しておりません。今後も丁寧な管理と情報提供に努めてまいります。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

7月の作業内容等

1.水管理②

中干し後は、間断灌水(水を張る状態と水を抜いて乾かす状態を繰り返す管理)を行います。これにより、土壌中へ酸素を供給し、根の健全な生育を促します。また、田面を適度に乾かすことで土壌表面を固くし、収穫時の作業性向上や稲の倒伏防止にもつながります。



中干作業の終了

2.草刈り

定期的に草刈りを行うことで、越冬してきたカメムシの繁殖を抑えることができます。カメムシの被害による黒い斑点は精米しても消えないため、出穂前の草刈りでカメムシの発生を抑えることが重要です。



畔の草刈り

3.獣害対策

獣害による農作物被害額は、近年再び増加傾向にあり、令和6年には約188億円となりました。背景には農村人口の減少により里山の管理が行き届かなくなり、野生動物が人里へ近づきやすい環境が広がったためだと考えられています。また、耕作放棄地の増加によって、使われなくなった田畑が野生動物の隠れ家や餌場となっています。さらに、気候の温暖化による積雪の減少で野生動物が冬を越しやすいくなり、個体数の増加も被害拡大の一因と考えられています。



電気柵の設置



電気柵用の電源